

あきらくんのお父さんへ

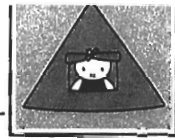
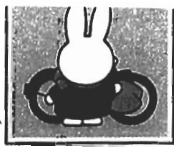
いつもあきらくんにあそんでももらってあ
りがとうございます。

ぼくは、今天気のことをしらべています。
でも海のことであからないことがあります。
そこで、海や船にくわしい、あきら
くんのお父さんに教えてもらいたいと思
い、お手紙を書きました。

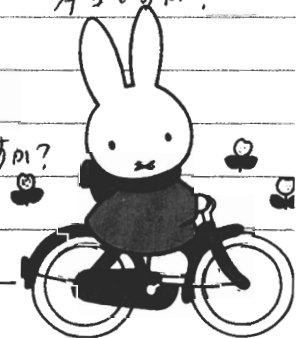
教えてもらいたいことを紙に書いておく
ります。知っていることや、ちがうなあ
と思うことがあれば、教えてください。
よろしくおるがいたします。

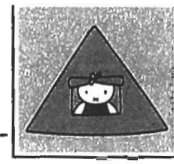
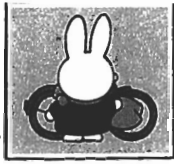
山口かずき





- ① 冬 日本近海は 無線の空電が多い日は 突風の恐れがある。 → 本当ですか？
冬だけですか？
- ② 大うねりは 暴風雨 襲来の兆し → 本当ですか？
どくらゐが「大うねり」「うねり」なのですか？
- ③ 海水 濁りて 潮流 急なれば 近日 暴風あり → 本当ですか？
海の水で、そんなには「濁る」んですか？
- ④ 冬 海面が 油を流して 曇り日がめれば 近く 海荒れあり → 本当ですか？
冬だけですか？ 「曇り」のことでですか？
- ⑤ 沖が 高鳴り するとき 海荒れあり → 本当ですか？
高鳴りって何ですか？
- ⑥ 海に 石が 浮くと 雨 (北灘の言い伝え) → 本当ですか？
- ⑥ 大いば (大海原) 火があれば 風 (下波の言い伝え) → 本当ですか？
何のことですか？
- ⑦ 島 奇りあれば 雨 → 本当ですか？
↳ そんなに 奇に 近くに見えるものであか？
- ⑧ 西の 黒雲 シケ 長し (宇和島の言い伝え) → 本当ですか？
- ⑨ 潮が あつ にかかると 大シケになる (下波の言い伝え) → 本当ですか？
温度が、ですか？ 1℃ 温度で シケになるのですか？
- ⑩ 潮 が 高いと 天気 が 巧 (下波の言い伝え) → 本当ですか？
波の高さのことですか？





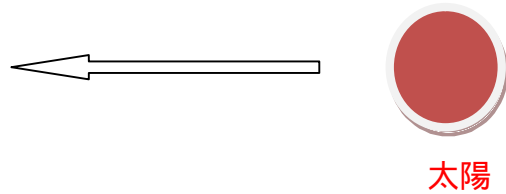
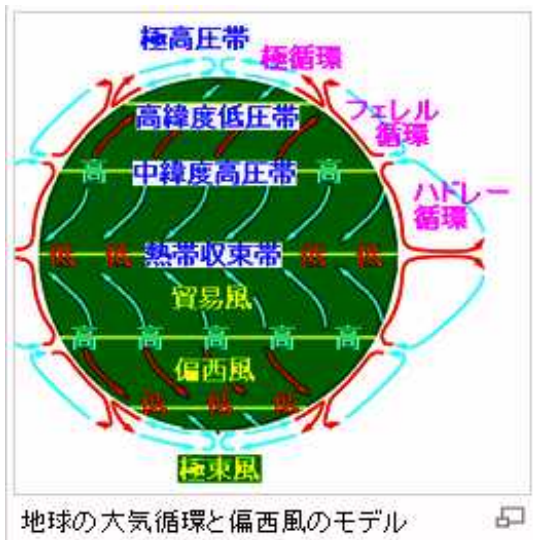
- ⑪ 暖簾が動くとは舟乗りだな → 本当ですか？
(高師の言い伝え) へんせいであか？
- ⑫ コナ(東の風)が 続くと 汐になる (御荘の言い伝え) → 本当ですか？
- ⑬ 冬の西風は、三ヶ島半島の雲がとれればお風がな.. (松山の言い伝え) → 本当ですか？
- ⑭ 潮目が陸に寄ると雨 → 本当ですか？ なぜですか？
- ⑮ 水面上に魚が飛ぶとは雨の兆し → 海の魚ですか？
本当ですか？
- ⑯ 沖の暗いのは雨になる、沖の赤いのは風になる (視音子の言い伝え) → 本当ですか？
海の色？ 空の色？
- ⑰ ニハ かわい子 舟に乗りあな (視音子(わか)の言い伝え)
旧暦の2月、8月は海の流れや天候が急変すると方々で言い伝えがひろがった → 本当ですか？
逆に10月はととも風いってるといってあか → 本当ですか？

いろいろの本地 ネット調べのあなが、南予と讃岐地方のものは持ち味がめるのであか。中予、東予のものはよく判りませんでしよ。(瀬戸内に限って)
全国的に見ると、外海のこととも揃ってん、
もし御存知の視天望文があれば、是非教えてください。
よろしくお願いあ。



かずき君、こんにちは、あきらの父さんです。

かずき君の質問に答える前に、地球全体の大気の流れ（循環）を説明します。



赤道付近では年中太陽の光を真上から浴びますので、その区域（主に海面）の表面温度は上昇していきます。その暖かい空気は空の高いところで北半球と南半球に分かれて流れていきます。その暖かい空気が上空で冷やされながら中緯度付近で地上に降りてきます。赤道は上昇気流なので低圧帯となり、中緯度は下降気流となり高圧帯となります。この高気圧・低気圧、気温が高い・低いというのは周りと比べて高いか・低いかで相対的にそう呼ばれています。

中緯度付近では下降気流が地面に降りてきますが、その冷えた空気は南北に分かれて流れていきます。北にながれた空気は高緯度低圧帯でまた上昇していきます。上昇した空気は、また南北に流れていき、北極において北極が寒いので下降気流となり地面に降りてきます。

大気はこのように南北に流れていきますが、北半球では流れが右に振れますので、日本上空では西よりの風が吹くことになり、それは偏西風（上空ではジェット気流）と呼ばれています。

夕焼けは晴れといわれるのは、この偏西風の西風に運ばれて、天気が西から東へ移動しているからです。

以下に、大洋風系図と大洋海流図を示しておきます。地球規模では大洋風系図のように風が吹いています。毎日毎日、同じような風が吹くことにより、潮の流れができてきて大洋海流図のような海流の流れができます。海流は風によって引き起こされています。流れがよく似ているでしょう。

以上が、気象・海象の基本です。

では、かずき君の質問に答えていきます。

大洋風系図(2)

C-a The distribution of atmospheric pressure and monsoon (Pettersson)

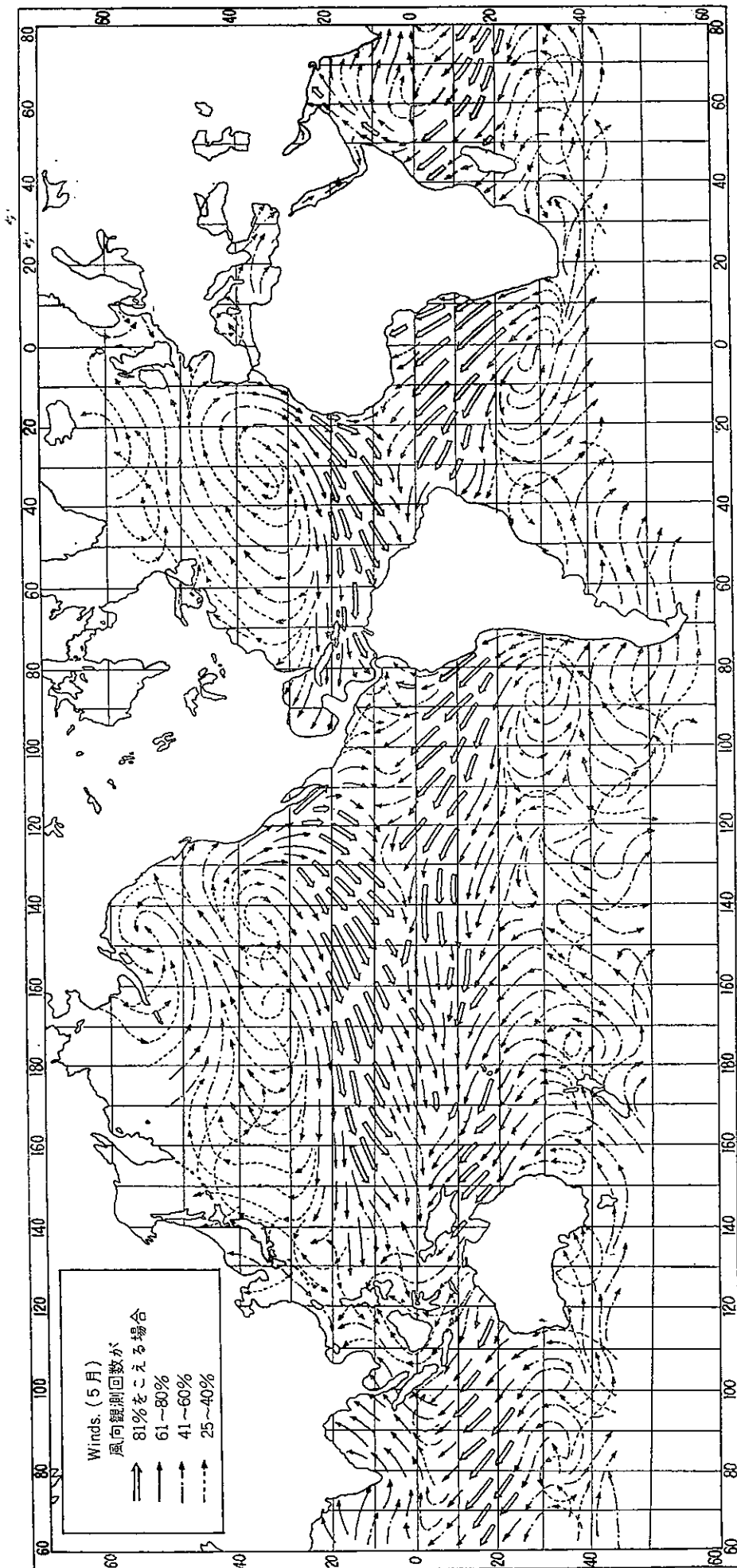
気圧配置と季節風 (冬) ペテルセン
 気圧配置と季節風 (夏) ペテルセン

- 1 Arctic air mass 極気団
- 2 Polar continental 寒帯大陸気団

air mass
 3 Polar maritime air 寒帯海洋気団
 mass

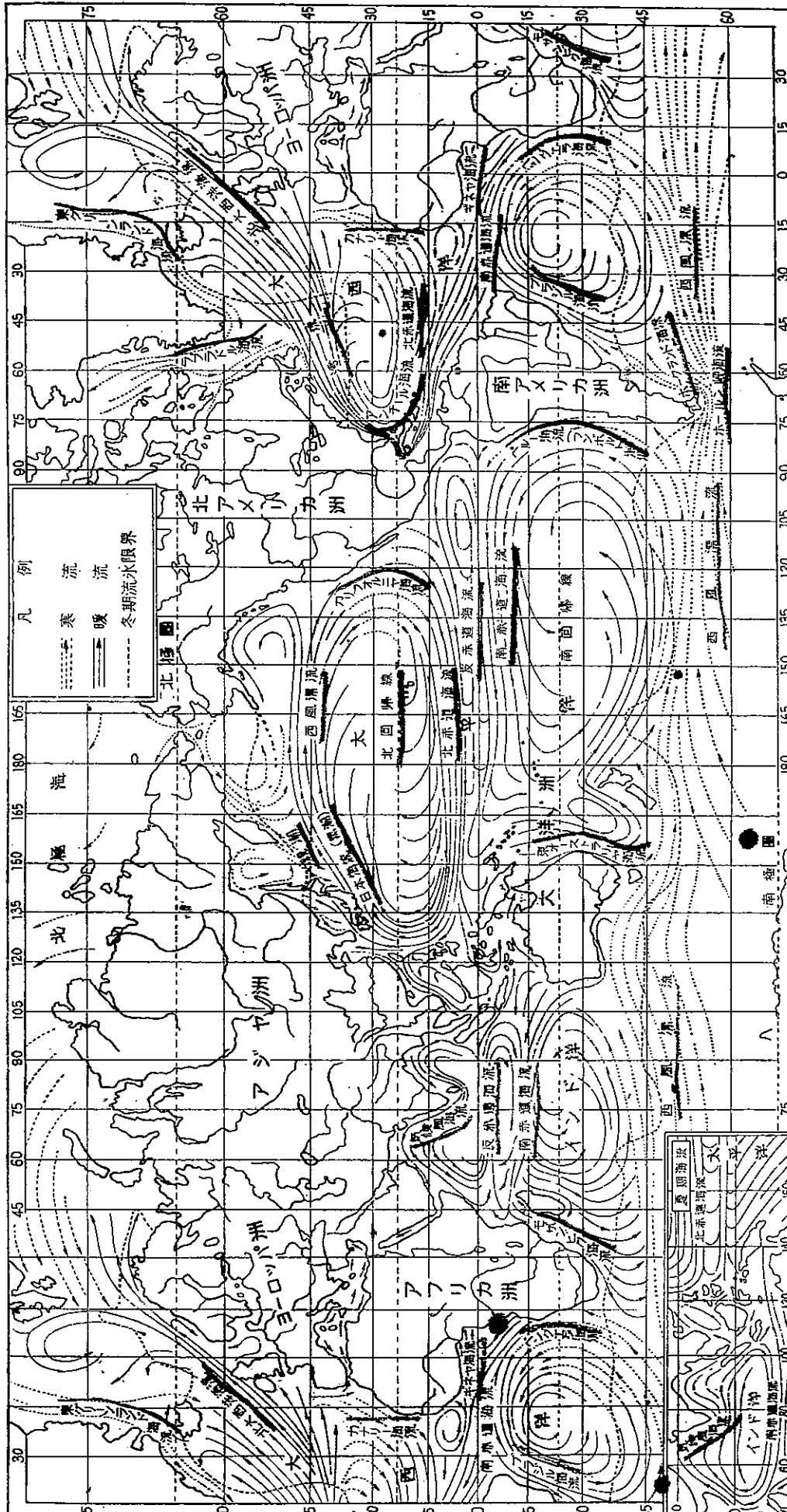
- 4 Tropical continental 熱帯大陸気団
 air mass
- 5 Tropical maritime 熱帯海洋気団

air mass
 6 Equatorial air mass 赤道気団
 7 Monsoon 季節風
 8 Transition zone 変質帯



OCEAN CURRENTS

大洋海流図



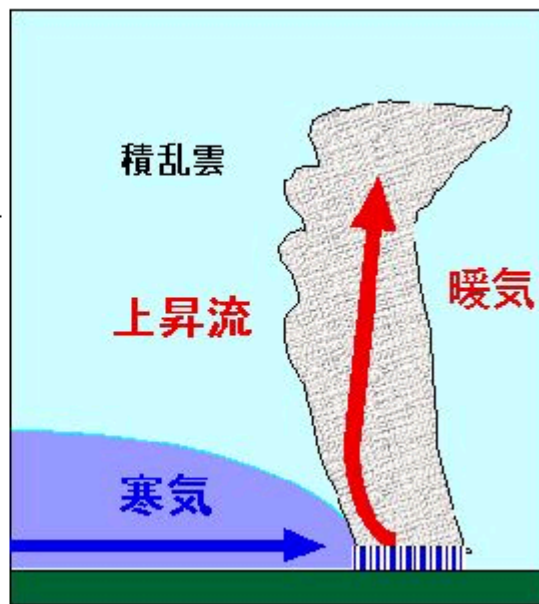
① 冬、日本近海に無数の空電が多い日は、突風の恐れがある。 → 本当ですか？
冬だけでいいか？

本当です！

雷による空電は、前線、とくに寒冷前線の通過、及び夏場の入道雲の発生時によくみられます。説明は以下のとおりです。質問の「冬」というのは、下の説明にもあるように冬の季節風により起こりやすいと思われませんが、寒冷前線は年中みられますし、入道雲（積乱雲）は夏場に多く現れるので、冬だけではないですね。難しいですが、参考までに「ウインドバースト」現象の説明も添付しておきます。

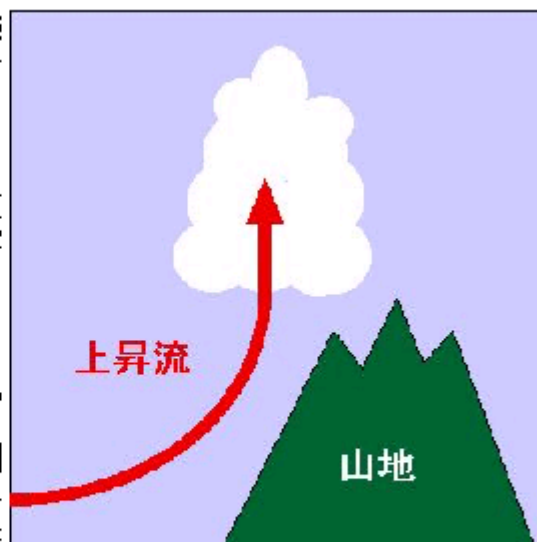
B、前線による上昇流

前線は温度や湿度が異なる空気が接している面で、地上に接しているところを前線と呼んでいます。前線では温かい空気が下に潜り込んだ冷たい空気の為に持ち上げられていますが、特に寒冷前線では急激に持ち上げられ激しい上昇期流が発生します。この原因による雷雨は「界雷」と呼ばれて、寒冷前線の通過とともに起こる事が多いため一日中何時でも発生します。



C、地形による上昇流

下層の湿った空気が山脈に当たり、強制的に持ち上げられて上昇流となる場合があります。梅雨期や秋雨の時に南から湿った温かい空気が大量に流れ込み（湿舌と言います）、九州、四国、紀伊半島の南東斜面にぶつかり上昇流となって対流雲を成長させ、雷とともに大雨を降らせる事がよくあります。また、冬に西高東低の気圧配置になった時、大陸からの乾燥した冷たい空気（冬の季節風）が温かい日本海を渡る時に大量の水蒸気を吸収して、日本列島の山脈（脊梁山脈）にぶつかり上昇流が発生して日本海側に大量の雪を降らせます。この時も積乱雲が発達して「一発雷」と呼ばれる雷が轟くと大雪になると言われています。



このケースも湿った温かい空気や冬の季節風が強まった時に起こり、一日の時間に関わらず発生します。

天候急変の知識：寒冷前線

筆者自身、エアタンクのない船にビギナーを乗せていて突風と雷雨に遭い、寒冷前線の前兆と経過の知識で助かった経験があります。知識がなければ、船は転覆し、強風で沖に流され、間違いないと遭難していたと思われる。相模湾でした経験は、以下の通りです。

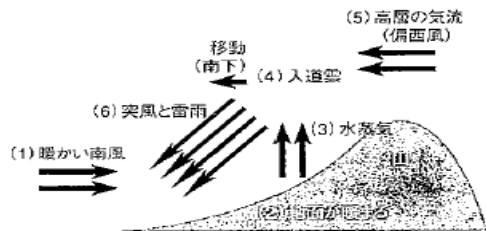
- (1) 南の軽風～中風が吹いている。
- (2) 現在の風向とは逆に、北から真っ黒な雲が南下してくる。
- (3) 現在の風が落ち始める。
- (4) 以上のような前兆から、北の突風が来ると予知。シーアンカーとセールダウンの準備。
- (5) 北の海面に風波が立つ。「最初の5分間を避けよ」と教わっていたので、ただちにシーアンカーをバウから流し、メインセールとジブを降下。
- (6) 突風(20m/s)と雷、滝のような雨が襲いかかってきた。
- (7) ジブだけ揚げ、シーアンカーを取り込み、リーチング気味で岸に向かう。
- (8) 幸い、メインを使わずに小さな砂浜に生還できた。

この日の天気予報は、「ところにより、にわか雨が雷雨」。対策としては、無風になる前に逃げ帰る事です。上の例は太平洋側のものですが、日本海側では、岸と沖の向きが逆なので、前線の影響も逆になることに注意してください。

天候急変の知識：夏の雷雨の原理

気象海洋コンサルタントの馬場部彦氏に教えていただいた。寒冷前線に似た局地的な嵐が「ウインドバースト現象」です。

この現象は、入道雲(積乱雲)からの強烈な下降気流による突風で、そのエリアは、偏西風によって北西から南東に向かって移動します。湘南地方では、箱根付近の入道雲に注意する必要があります。全国各地では、北西方向の入道雲が崩れ始めたら要注意。天気予報は「ところにより、にわか雨が雷雨」。



② 大うねりは 暴風雨 襲来の兆し

→ 本当ですか?

どくらんが「大うねり」「うねり」なのですか?

本当です!

風浪とうねり： 風浪というのは、その場に吹いている風によって起きている波である。うねりというのは、風が吹いている場所から伝わってきた波である。うねりは、風浪のなかの速さ(周期)の同じものが風浪域を離れて一団となって進んでいるものであるから、波のうねが長く、波頂は丸味をもっている。

遠方で暴風域があると、その海域では大時化となり風浪(波)が高くなります。その海域から離れて一団となってうねりが進んでくるわけですから、大うねりがくれば、そのうねりの進んでくる方向に時化があるな、そのうちここも暴風雨の来襲となるなということです。参考に、気象庁の風浪階級表、及びうねり階級表を添付します。

表 8.4 気象庁風浪階級表

階級	説 明	波高(m)
0	油を流したようになめらか	0
1	穏やか、さざ波がある。	0~0.5未満
2	なめらか、小さな風浪がある。	0.5~1未満
3	やや波がある。	1~2未満
4	かなり波がある。	2~3未満
5	やや高い波がある。	3~4未満
6	かなり高い波がある。	4~6未満
7	相当荒れている。	6~9未満
8	非常に荒れている。	9~14未満
9	異常な状態。(台風の中心域など)	14以上

表 8.5 気象庁うねり階級表

階 級	説 明
0	うねりがない。
1	短く、または中位
2	長く
3	短く
4	中位の
5	長く
6	短く
7	中位の
8	長く
9	2方向以上からうねりが来て混乱している。

(注) [短く]とは、波長100m以下(周期8.0sec以下)。
 [中位]とは、波長100~200m(周期8.1~11.3sec)。
 [長く]とは、波長200m以上(周期11.4sec以上)。

この表から、大うねり(高いうねり)とは波高4m以上のものをいいます。波長は100mから200m、あるいは200m以上のものをいいます。

④ 冬 海面が油を流したとき日がめれば 近く 海荒れあり → 本当ですか？
冬にだけですか？ 冬にだけのことですか？

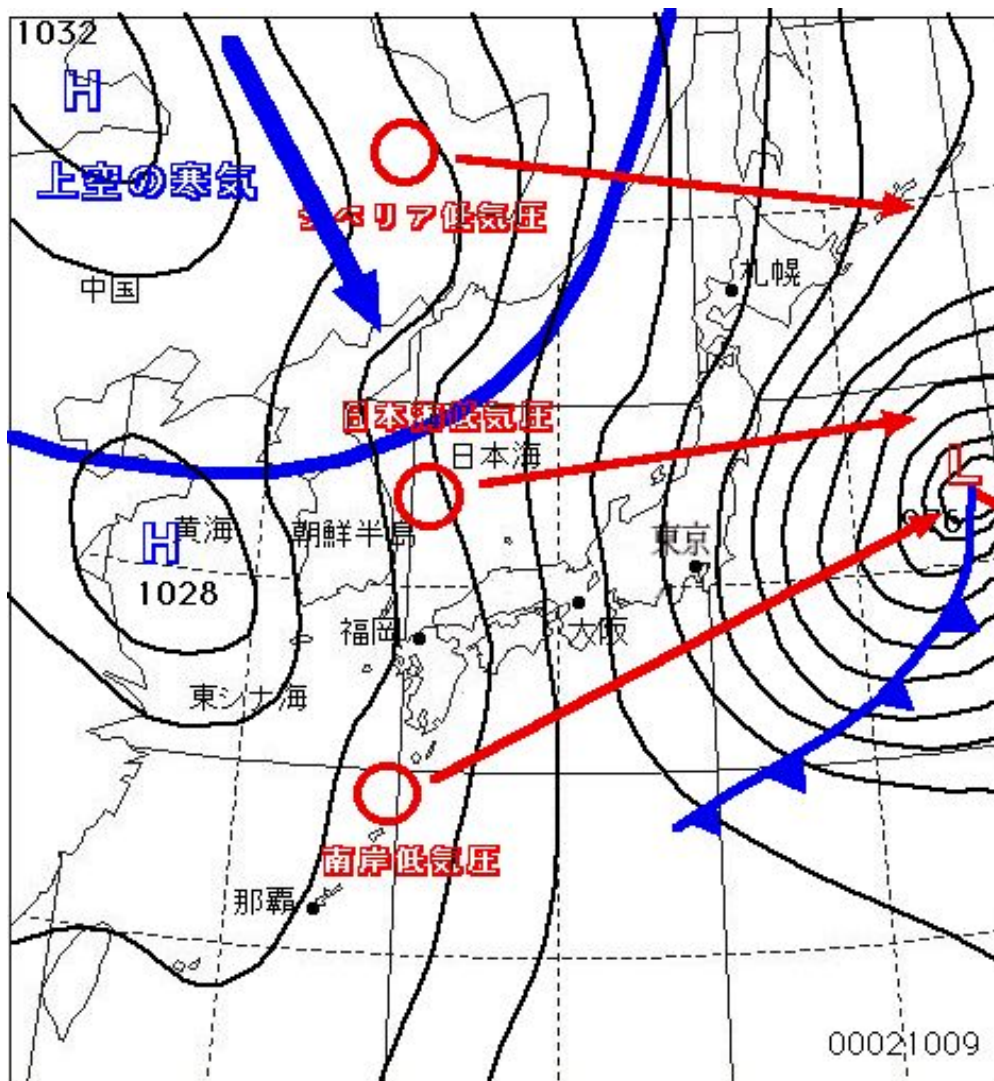
1、西高東低

12月も半ばを過ぎるとシベリアの高気圧が勢力を強め、アリューシャン列島付近では低気圧が発達し、日本列島付近の等圧線が南北の縦に並び大陸からの季節風が強く吹き付け西高東低の典型的な冬型の気圧配置となります。

この冬型の気圧配置は12月末から2月中頃までずっと続く訳でなく、約5～6日周期で冬型が強まったり弱まったりしています。

また冬型の強さにも周期性があるといわれ、最初の寒波から次の寒波までの日数を数えればその日数後にその次の寒波が来ると言われています。

冬型も強まったり弱まったりしていると言いましたが、そのサイクルは次の様になっています。



西高東低の気圧配置で大陸から強い季節風が吹き、日本海側では雪が降り山間部では吹雪となります。（衛星写真では日本海に筋状の雲があらわれます。）

西高東低の冬型が緩み高気圧が移動性となって日本列島上を通過すると、移動性高気圧の後面の日本海西部や日本列島の南岸に低気圧が発生します。低気圧が発達しながら東進し三陸沖で台風並みに発達します。

この時日本海西部に発生し日本列島を横断する低気圧を「日本海低気圧」と呼び、九州付近で発生し日本列島南岸を北東に進む低気圧を「南岸低気圧」と呼んでいます。

また日本海と南岸に発生した2つの低気圧が共に東進する「二つ玉低気圧」や中国東北部や沿海州で発生し北海道やサハリンを通過して千島列島付近で猛烈に発達する「シベリア低気圧」などがあります。

低気圧が発達しながら日本列島東方海上で発達すると同時に寒気を伴った大陸の高気圧が張り出し、西高東低の冬型になり大陸から季節風が吹出し日本海に筋雲が出来、日本海側は雪となり山岳部は吹雪となります。

日本の2000mをこえる山では、冬の間は偏西風がほぼ真上に来るため強い影響を受け20mを超える強風が吹き荒れます。

また、大陸からの寒気で気温がマイナス20℃を下回る事も珍しくありません。こんな時は体感温度がマイナス40℃と言う環境になり生命が危険に曝される状態になります。

運良く寒波の谷間で簡単に行動する事ができる場合があるかも知れませんが、やはり冬期の2000m以上の高い山は、豊富な経験と強い体力と優秀な装備を備えた限られた人の世界だと思えます。

日本アルプスの冬の気候はヒマラヤに匹敵すると言われていいますので安易な気持ちでの入山はしてはならないと思えます。

あきらの父さんの回答

上の説明は、インターネットからの典型的な冬の気圧配置です。このあと偏西風により気圧配置が東へ移動していきますので、高気圧圏内に入ることになります。この瞬間が「海面が油を流したごとき日（べたなぎ）」であります。あまり長くは続かず、すぐ低気圧が来て海が荒れ、低気圧がすぎても西高東低の気圧配置となり西風が吹きまわることになります。

これは、冬に限りませんが、冬のほうがよりはっきりとこの現象が現れます。それは、冬季、大陸が冷たくて、日本周辺の海が暖かいので、西に高気圧・東に低気圧が発達しやすいからです。ほかの質問のところに、潮があたたかくなると大時化になるとありますね。

⑤ 沖が高鳴りあるときは 海荒れあり

→ 本当ですか？

高鳴りって何ですか？

本当です！

高鳴りとは、ざわざわと落ち着かない雰囲気的大海だと思われま

す。これは、遠方からうねりとか波動とかが伝わってきて海が神経質な感じになっていることだと思

います。②で説明しましたが、沖の時化した場所から伝わって来るのはうねりだけではなく、いろいろな現象が伝わってきます。

風浪とうねり： 風浪というのは、その場に吹いている風によって起きている波である。うねりというのは、風が吹いている場所から伝わってきた波である。うねりは、風浪のなかの速さ(周期)の同じものが風浪域を離れて一団となって進んでいるものであるから、波のうねが長く、波頂は丸味をもっている。

遠方で暴風域があると、その海域では大時化となり風浪(波)が高くなります。その海域から離れて一団となつてうねりが進んでくるわけですから、大うねりがくれば、そのうねりの進んでくる方向に時化があるな、そのうちここも暴風雨の来襲となるなということです。

⑥ 海に砂が浮くと雨 (比叢の言伝)

→ 本当ですか？

本当だと思います。

海水面が高くなって、普段海水に接していない砂が海水に洗われて「海に砂が浮く」と考えられます。それと、上の質問のなかにある「沖が高鳴る」現象も低気圧が近づいてきていますから出ると思

います。そうすると海のなかでもぞもぞとして砂も浮いてきますね。海水面の高さは、潮汐といって月の重力に引っ張られることで起こる周期的なものが第一ですが、気圧にも影響されます。私たちが勉強したころはミリバールといって気圧の単位を表現していました。今は、ヘクトパスカルです。この気圧が1ヘクトパスカル変化すると、海面高さが約1cm変化するのです。気圧が1020ヘクトパスカルのときに2mであった海面が、気圧が980ヘクトパスカルになると、2.4mと40cmも海面が高くなりますので、潮が高くなるということは気圧が低くなることを意味します。気圧が低くなるということは低気圧が接近しているということであり、天気は不安定になり雨もふりま

⑥ たいな火(大海原)火があれば風 (下波の言・伝之) → 本当ですか?
何のことですか?

本当です!

遠くに明かりが見えるのは、視界がいいからです。

風が弱いと空気がよどみ視界が悪くなりますが、風が吹くと濁った空気を吹き飛ばしてしまうので、視界がよくなり、遠くの明かりが見えます。だから、たいな火があれば風です。

⑦ 島寄りすれば雨 → 本当ですか?
↳ 島寄りに近いに見えませんか?

本当です。

空気が湿って、ガスぎみになると、島が近くに見えることがあります。

逆に台風のあとなど、視界がよくて島が近く(遠く?)に見えることがあります、感覚的なものだと思います。

⑧ 西の黒雲 シケ長し (宇和島の言・伝之) → 本当ですか?

本当です!

日本(中緯度域)では、偏西風により天気は西から変わってきます。よって西に黒雲があれば(どんより暗ければ)時化はあがらないな(長くなるな)となります。逆に、西の空が明るくなれば、時化が終わって、天気が良くなる前兆となります。

⑨ 潮が暖かくなると大シケになる (下波の言・伝之) → 本当ですか?
温度が、ですか? 1日温度でシケになるのですか?

本当です!

潮が暖かいとは温度が高いことです。海面温度が高いとエネルギーがたくさんあるのと、上昇気流が強くなるので、大時化になる可能性が高くなります。

⑩ 潮が高いと天気狂う (下波の言・伝之) → 本当ですか?
波の高さのことですか?

本当です! 潮が高いとは海面の高さのことです。

海水面の高さは、潮汐といって月の重力に引っ張られることで起こる周期的なものが第一ですが、気圧にも影響されます。私たちが勉強したころはミリバールといって気圧の単位を表現していました。今は、ヘクトパスカルです。この気圧が1ヘクトパスカル変化すると、海面高さが約1cm変化するのです。気圧が1020ヘクトパスカルのときに2mであった海面が、気圧が980ヘクトパスカルになると、2.4mと40cmも海面が高くなりますので、潮が高いことは気圧が低いことを意味します。気圧が低いということは低気圧圏内ということであり、天気は不安定になります。

⑩ 暖簾が動くときは舟乗りだな → 本当ですか？
(吉田春信) ちよせじあか？

本当です！

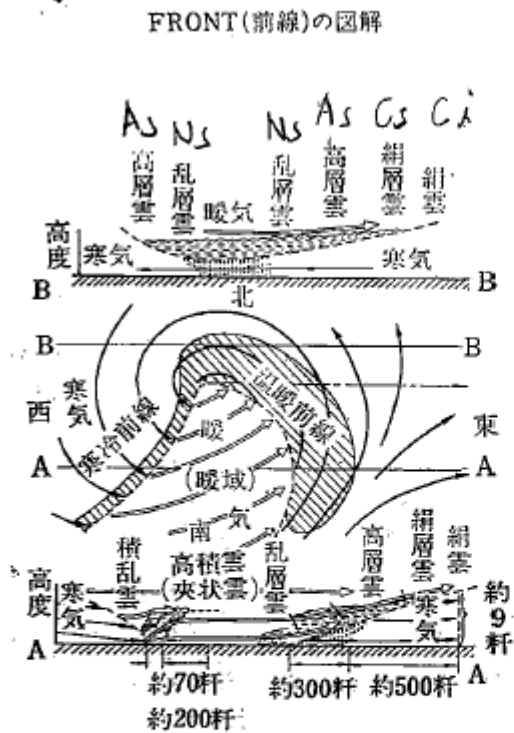
暖簾が動くのは、風で動くと考えられます。大時化になると強い風が吹きまわりますが、その前兆の段階では、風が吹いたり止まったり、強くなったり弱くなったり息をします。暖簾が動くとは、時化の前兆の段階と考え、船を出したら時化が来るから、船を出すなということだと思えます。

⑫ コナ(東の風)が 続くと シケになる (御荘の言い伝え) → 本当ですか?

本当です!

適当な図面が見あたらないので、わかりにくいですが、下の前線の図で説明します。台風の場合は、前線(寒冷前線及び温暖前線)がないのですが、風の流れは似ています。低気圧(前線)が近づいてくるとします。風は低気圧のなかで反時計回りに吹いています(北半球の場合)下図では矢印 ← で示されています。青年期の図を見てもらうと低気圧の頭のところで風が東に吹いていますね。低気圧が大きいほどこの東の風が遠方から吹くことになり、やがて低気圧がきてシケになるということです。

特に、台風の場合は東の風が続くと、台風が接近していますから用心しなければなりません。

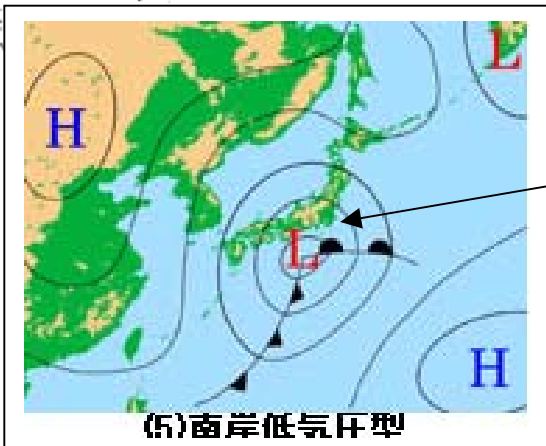


低気圧の平面および立体構造。
(ビャークネスによる)
二重線は暖気流 単線は寒気流
鎖線は低気圧の進行方向



低気圧の盛衰

⇒ 暖気流 — 空気の流れ



左図で、東京の人は東風を受けていますね。そして間もなく低気圧が来て、雨が降ったり風が荒れたりします。

⑬ 冬の西風は、三ヶ半島の雲がとれはければ、雨が降る。(松山の言い伝え) → 本当ですか？

本当です！

⑭ 潮目が陸に寄ると雨 → 本当ですか？ なぜですか？

本当です！

⑩ で説明したように、気圧が下がってきていますから、潮が高くなっています。よって、より陸のほうに多くの海水が押し寄せる結果になり、潮目も陸に寄ってくるようになります。そして低気圧の来襲とともに雨が降り出します。

⑮ 水筒に魚が飛びまわるときは雨の兆し → 海魚ですか？
本当ですか？

本当です！

⑩ で説明したように、気圧が下がってくると、潮が高くなってきます。よって、より陸のほうに多くの海水が押し寄せる結果になります。潮が高くなって海水が陸側に押し寄せる際には、小魚も陸の方によってきます（陸に近い方が餌が豊富なのです）。その小魚を追いかけてだんだん大きな魚も陸によってくることになります。海では海面近くが一番太陽の光をあびるので、まず植物プランクトンが増殖され、それを食べる動物プランクトンも増殖します。それらの豊富なプランクトンを追いかけて小魚が集まり、その小魚をだんだん大きな魚が捕食しようと追いかけることにより、魚が逃げたり追いかけるために水面近くを飛んだり跳ねたりします。これは、低気圧の接近により潮が高くなることとリンクしますので、やがて雨が降り出します。

⑯ 沖が暗いのは雨になる、沖が赤いのは風になる(視察隊の言い伝え) → 本当ですか？
海の色？ 空の色？

本当です！

沖とは、西側の空と考えて、西の空が雲で暗いわけです。天気は西から変わっていくのでやがて雲がきて雨になります。

沖の空が赤いとは夕焼けで雲がないわけですから高気圧が西にあることになります。この時点で西高東低（西に高気圧・東に低気圧）の気圧配置が存在すれば西風が吹きます。風は気圧の高いところから低いところへ吹く（流れる）からです。

⑱ 二・八 かわい子 舟に乗らな (視音予 (何かの言、伝之))

旧暦の2月、8月は海風や天候が急変するとおとて言、伝えがめろアピ → 本当ですか?

逆: 10月ほどとも風いっていると...アピ

→ 本当ですか?

本当です!

旧暦の2月と8月は新暦の4月と9月10月のことです。4月は冬から春・夏への気候の大転換時ですので風が吹きます。よく「春の嵐」と形容されます。ちなみに日本近海で一番風が吹くのは4月であり、海難事故も4月が圧倒的に多いです。あと、4月の嵐の原因のひとつに、台湾坊主という低気圧の発生がありますが、詳しい説明は控えます。

9・10月はもちろん台風の影響です。

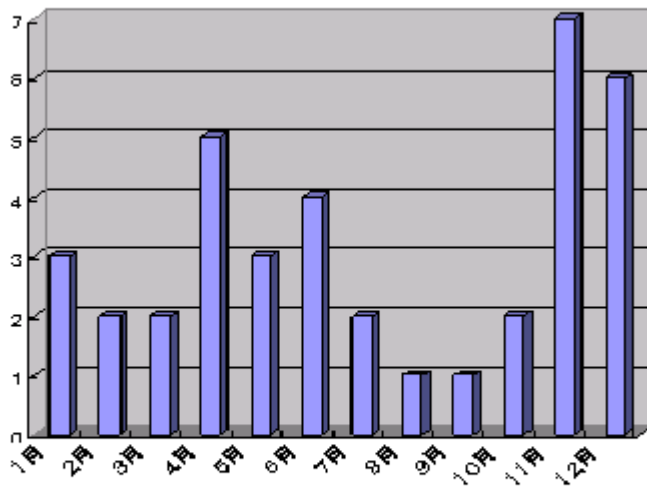
世界にはヨット乗りがたくさんおりますが、日本には外国からあまりヨットが来ません。その理由はこの「二・八かわい子、船に乗らすな」のとおり、この時化に対処できないからです。フランス(ヨーロッパ)では、日本近海は世界で最も厳しい海域であると言われています。下記の統計で9・10月の海難事故が少ないのは、~~風が弱いのと~~台風が来たら避難するからです。避難しなければならない時期にかわい子を船には乗せませんね。しかし、4月の台湾坊主、及び突風は避けようがないほど突然にくるし強烈なのです。

6月にも海難事故がわりと多いのは、雨と霧で視界が悪くなるからです。

11月12月に海難事故が多いですが、やはり風が強いですね。

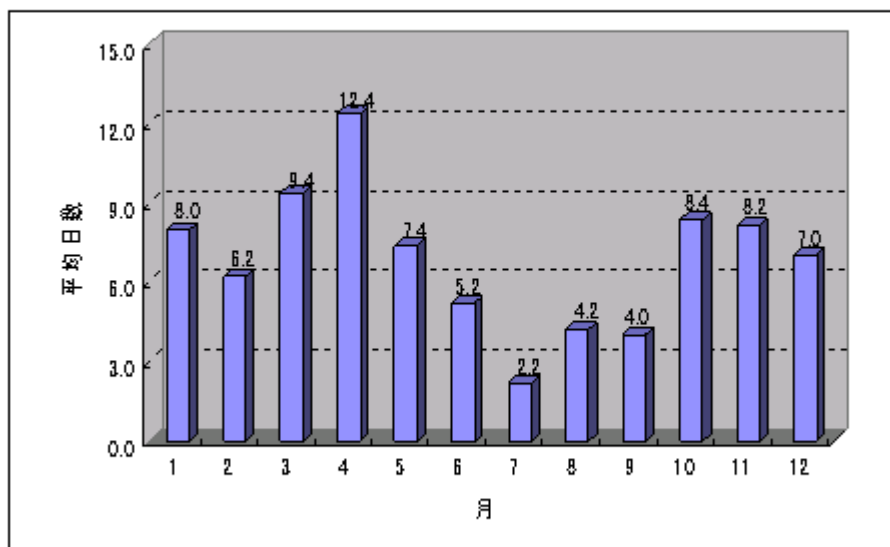
2 海難事故の状況

(1) 月別

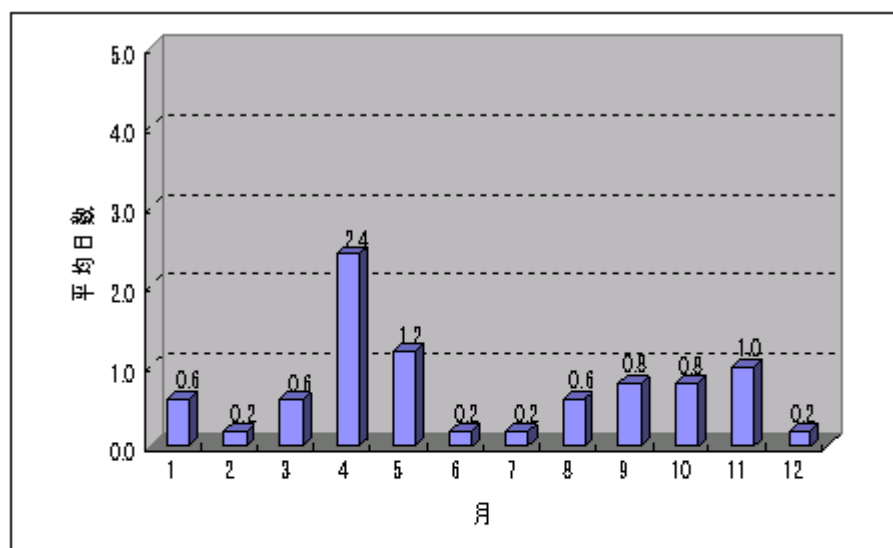


時期的な傾向としては、4月～6月の年度初期3ヶ月で32%発生し、11月・12月の年が迫る2ヶ月で34%と多発していますが、7月～9月の夏では11%と少なくなっています。

※ 参考:「日最大10分間平均風速15kt及び25kt以上の月別平均出現日数」
 月別の時刻別平均風速と同じように風速15kt及び25kt以上の事例を見ても、
 4月が他の月に比べ日数が多いです。



【 15kt 以上 】



【 25kt 以上 】

(3)まとめ

月別の平均風速は、4月の風速が他の月より強い傾向にあります。
 時期的に見ても下層の寒気移流場が続きやすい状況の中で、
 雪解けが進むことにより地表面が加熱しやすくなって対流が活発になり
 やすいためと考えられます。

- * 25kt とは 25 ノットのことで、風速の単位です、約半分にすると m になります。
 25kt は風速約 12m のことです。 風速が 10m を超えるとかなり風が強いと感じます。
 15m 以上吹けば、それはもう時化です。

台湾近海に発生する温帯低気圧。急速に発達しながら、日本の南海上を通り、南岸の地方を中心に雨や雪を降らせ、さらに北東に進んで北日本に暴風雨や暴風雪をもたらす。この低気圧が発生するときは、大陸の高気圧が舌状に日本付近にやや北偏して張り出し、その南西の縁辺にあたる台湾近海の等圧線が北方に丸みを帯びてくぼみ、東西方向に伸びる停滞前線が波を打つ形となって温暖前線と寒冷前線になる。冬から春にかけてよく現れる。台湾坊主の名は、発生期の等圧線の形に由来するといわれるが、台湾低気圧、東シナ海低気圧といいかえられる場合が多い。

[執筆者: 倉嶋 厚]